議員の巻頭大特集 聞く×つなぐ

消滅可能性都市を 吹き飛ばせ！

移住・定住・関係人口の拡大

キーワードは「小川町ファンづくり」。都心への利便性や自然豊かな住環境を、どこで誰に発信するかがカギ。

▼こちらもチェック！
小川町移住サポートセンター

まずは社会減を改善せよ

転出者の声を聴け！ そしてＵＩＪターンへつなげよ

DATA-1 社会増減（転入・転出の差）	DATA-2 移住サポートセンターにおける移住・定住マッチング
基準値：年平均 203人減（H21-30年度）	基準値：27件（H30年度）
目標値：年平均 20人改善（R2-6年度）	目標値：累計 150件（R2-6年度）

「まずは笑顔でおもてなし」小川町の移住・定住最前線を担う移住サポートセンタースタッフ

空き家活用促進補助金

Q 契約に至った物件の改修費は、いくら補助されるのか。

A 空き家バンクに登録し購入した場合、基本補助額は20万円です。加算要件で40歳未満の移住者には10万円、小川町立地適正化計画の居住誘導区域内の空き家には10万円を考えています。

ＴＪライナー利用補助

Q 転入者に対し「ＴＪライナーの座席指定券」の補助（月7500円を限度）をするようだが。

A 町ホームページ・公式ツイッターや、移住サポートセンター・モザートなど、町外の方が多く訪れる場所で情報を発信していきます。空き家バンク・空き家活用補助金と組み合わせ、居住誘導と定住促進を図ります。

一工夫 移住者への手厚い補助は大変良いことですが、定住者にも一工夫ほしいですね。女性の働き方改革、時間制約が多い子育て世代の働く場所が多くあればいいと思います。

栗嶋 修さん（木呂子）

大賛成 人口減少を少しでも食い止める事業として大賛成！ 移住希望者と物件オーナーとのマッチング件数増加のために1人でも多くの町民に関心を持ってほしいですね。

笠原秀喜さん（笠原）

▼こちらもチェック！
町ＨＰ「創業支援」

消滅可能性都市を 吹き飛ばせ！

しごとづくり・ひとづくり

「安定した収入」と「やりがいのある仕事」が必須。既に、人手不足による若者争奪戦は始まっている。

若者が働く場を創出せよ

損して得取れ！ 思い切った投資が必要では？

DATA-3 町内で働く従業者数	DATA-4 中心市街地における空き店舗活用件数
基準値：9,424人（H28年度）	基準値：2件（H30年度）
目標値：9,500人（R6年度）	目標値：累計 8件（R2-6年度）

「空き店舗」を活用し、見事に「にぎわい」を生み出した新しいお店。ほかにも2店舗が元気に営業しています。

空き店舗の活用補助金

Q 条件の緩和をすべきではないか。

A 昨年度、補助に至らなかったことを踏まえ、補助制度を見直しました。駅周辺の商業地域に限定されていた対象地域を若干拡大するとともに、新たに東小川の近隣商業地域にも拡大します。

ひとづくり

Q どのような「ひとづくり」を進めていくのか。

A 人口減少に負けない魅力あるまちづくりの実現のため、「（仮称）小川町フォーラム」を開催し、「町が目指すべき方向」を確認しあいます。賛同された方々で実行委員会をつくり、それぞれの得意分野を活かして事業を実施していただきます。実行委員会をまとめるコーディネーターをプロポーザル方式📖で募集します。

実感！ 女性客を意識した店づくりを目指したのですが、幅広くご利用いただいております。地元の皆さんが快く受け入れてくださっている、と実感しています。

飯沼祐治さん（寄居町）

本音は 補助をしていただき感謝していますが「先にいただきたかった」というのが本音。「週5日の昼営業を2年間続ける」の補助要件、少々厳しいと思います。

宮下龍平さん（みどりが丘）

📖 プロポーザル方式…業務の委託先や建築物の設計者を選定する際に、複数の者に企画を立案してもらい、優れた提案を行った者を選定する方式。